



Tokyo Union
Theological Seminary



東京神學大學



東京神学大学は、神学部・神学科の単科大学です。このことは、現代の社会に主イエス・キリストの福音の真理を伝えるためにひたすら伝道者・牧師を養成することにかけた大学ということです。そのため必要な神学研究と教育を行っています。こういう大学は日本で唯一のものと言ってよいでしょう。

現代人の誰もが、心の底で真実の支えや救いを必要としているのではないのでしょうか。人生の本当の生きる意味、そして力はどこから来るのでしょうか。人と人とのつながりを生み出し、支えてくれるものは何でしょうか。私たちの世界はどこに向かっていくのでしょうか。希望はあるのでしょうか。これらの問いはみな「福音の真理」を尋ね求める問いと言ってよいでしょう。こうした現代人の問いに答える福音を生き生きと語り、伝える伝道者が必要です。この意味ある働きのために皆さんの献身が必要とされています。

東京神学大学の卒業生は、全国の諸教会の牧師として、それぞれの地域社会で福音を伝えています。またキリスト教学校の聖書科教師として、あるいはキリスト教大学のチャプレンや教授として働いている人もおります。キリスト教病院のチャプレンもいます。

こうした奉仕のためには、学問的な訓練が必要です。東京神学大学の学問的水準は国際的にどこに出してもひけをとるものではありません。東京神学大学は二つの専攻(組織神学と聖書神学)において博士の学位を出していますが、さらに卒業生の牧師としてまた学校教師としての実績がこの大学の水準の高さをよく示しています。洗礼を受けて、献身の志を与えられた方々の入学をお待ちしています。

東京神学大学 学長
近藤 勝彦

「福音の真理」を伝える伝道者を、
いまの世に



日本伝道の歩みと東京神学大学



東京神学社の卒業式(年代不詳)

教授 棚村 重行(歴史神学)

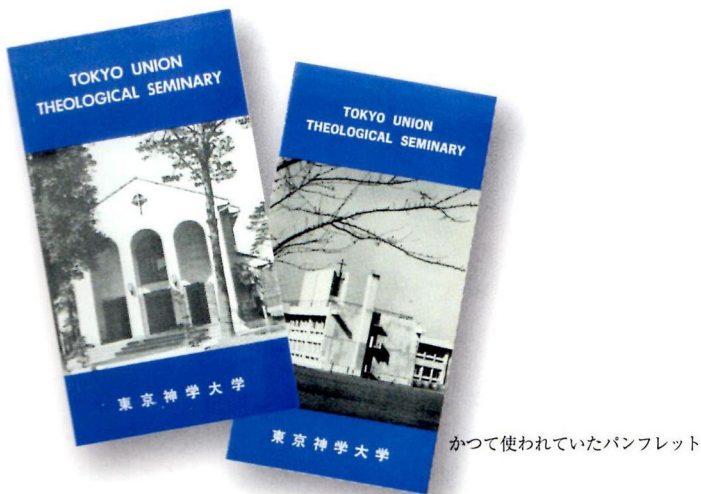
「日本の教会と神学校はなぜ合同したがるのですか？」これは数年前本学を訪問した韓国の一神学大学の学生たちが、本学に合流した多様な旧教派神学校の系統図を見て発した驚きの問いです。一つの答えは様々な教会合同運動(エキュメニズム)を主動機とし、教派を建設する動機も絡み織りなすドラマ——これが歴史的に見た日本伝道の脚本といえましょう。

三段跳び式に言えば、ホップ段階の明治初期、信仰復興の福音を伝えた日本基督公会という19世紀の合同運動が、教派形成と対抗して移植されました。宣教師ブラウンの合同神学塾は本学の遠く遙かなる一源流です。

ステップ段階は、20世紀エキュメニズムの日本基督教連盟をエンジンとした教派の協力合同運動の時期です。この頃二つの神学教育機関、東京神学社と明治学院神学部が合同し、日本神学校が誕生しました(1930年)。

このステップの上に、第二次世界大戦時の国家による宗教団体法の超突風も加わり、当時のプロテスタント30余派は多教派間合同教会、日本基督教団へジャンプしました(1941年)。この教団の教職養成校、日本基督教神学専門学校(1944年)を経て、戦後の1949年に新制東京神学大学が誕生したわけです。

以来、聖書と歴史的な信仰告白の資産を継承し、「教団信仰告白」を規準とした、健全な福音の伝道と諸教会に開かれた神学教育、教団形成の更なるジャンプに努める神学大学——これが本学の基本姿勢です。



かつて使われていたパンフレット

東京神学大学開校までの歩み

- | | |
|-------------|--|
| 1859(安政6)年 | プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を開始。 |
| 1872(明治5)年 | 横浜に最初の教会「日本基督公会」が設立された。 |
| 1873(明治6)年 | 宣教師のS.ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開講。1877年「東京一致神学校」(のちの明治学院)開校。 |
| 1904(明治37)年 | 「東京神学社」が牧師・植村正久によって設立される。 |
| 1930(昭和5)年 | 本学の前身となる「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」はここに合流する。 |
| 1941(昭和16)年 | プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団が設立される。 |
| 1943(昭和18)年 | 教派ごとに分かれていた神学校が「日本東部神学校」「日本西部神学校」「日本女子神学校」の3校に統合され、さらに1944(昭和19)年、この3校が合流して「日本基督教神学専門学校」となる。 |
| 1945(昭和20)年 | 敗戦 |
| 1949(昭和24)年 | 日本基督教団立の伝道者養成機関として新制大学「東京神学大学」を開校。 |



伝道者を育てる東京神学大学

キリストの福音が、力強く、しかも御心にふさわしく伝えられるために、教会は特別に牧師、伝道者をたててきました。そのような福音伝道者を育てる教育機関は日本にも多くありますが、中でも東京神学大学は、多くの特徴をもつユニークな神学教育機関です。ここでは、6つの特徴を説明します。

1 合同神学校 (ユニオン・セミナリー) としての東京神学大学

東京神学大学のルーツは、明治初期のブラウン塾にまでさかのぼり、東京一致神学校(1877年)、東京神学社(1904年)、日本神学校(1930年)を経て、さらに多くのプロテスタントの神学教育の伝統を吸収しながら、日本東部神学校、日本西部神学校、日本女子神学校が合流してできた神学教育機関です。1949年に新制大学としてスタートした本学は、日本のプロテスタント教会が総力を挙げて育んだ最上の伝統を受け継ぐ、日本基督教団立の合同神学校です。

3 教会に仕える 伝道者を養成する大学

東京神学大学は、日本では数少ない神学専門の単科大学で、教会、キリスト教学校、その他キリスト教関係の施設に仕える牧師、伝道者を育成することを使命としています。本学は、神学部のみならず、大学院をも備え、学士、修士、さらに博士まで取得することのできるプログラムを持っています。



2 高度な 神学教育を誇る

すべての教員が海外でも神学教育を受け、またほとんどの教員が海外の有力な神学教育機関からの博士号を有しています。これら経験豊かな教授陣が、研究と教育にあたっています。もちろん、すべての教員はプロテスタントの牧師であり、教会に仕える神学研究に力を注いでいます。

福音に仕えるために召された者

教授 大住 雄一 (旧約聖書神学)

キリストであるイエスの奴隷として、福音に仕えるために召された者、それが伝道者です(ローマ1:1)。イエス・キリストの奴隷は、キリストの尊い血を代価として、罪の手から買い取られたのです。これまでの自分のことはいっさい捨て去り、犠牲を払ってくださった主人に「命まらごと」仕える。召命を受けたということは、つまり、主人に献身したということ、自分の身を養う「なりわい」を捨て、そのことは主人におゆだねして、自分はいつでも、どこへ行けと言われても、主人に従う態勢ができているということです。

「召命」という言葉が、しかし今日、日本基督教団関係神学校の多くでは語られることもなくなっていると聞いています。召命が語られないなら、キリストへの献身ということもなくなります。「自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め」る(第2テモテ4:3)時代が来ているに違いない。福音を宣べ伝えることよりも自己愛が優先される時代、仕えることよりも仕えられることを喜ぶ時代。このような時代に飲み込まれることなく、終りの日のキリストの出現と御国を望み見つつ、ただ御言葉を宣べ伝え続ける(第2テモテ4:1-2)、そのような献身者が求められています。

4 教会による、 教会のための大学

東京神学大学で学ぶ神学生が必要とする経費(年間約300万円/1人)のうち、およそ半分は全国各地にある諸教会からの献金で支えられています。本学の特質を良く理解する諸教会が、全国各地に後援会を組織して、祈りと献金によって本学を背後から支えてくださっています。神学生は、そのような諸教会からの推薦を受けて入学し、学びを終え卒業したとき、ほとんどはこれらの諸教会に派遣されます。東京神学大学は、本当の意味で「教会による、教会のための大学」だと言えるでしょう。

5 世界に開かれた 神学教育機関

東京神学大学は、世界の諸教会、神学教育機関とも密接なネットワークをもつ神学校です。教員の中には海外の教会から派遣された宣教師もおり、留学生も多数学んでいます。留学生の割合は、全学生数の約10%で、主に韓国と中国の出身者です。さらに学内にアジア伝道研究所を持ち、アジアにおける伝道の課題を担うためのセミナーや研修旅行なども実施しています。

6 教育職員免許状(宗教)を 取得可能

日本のプロテスタントのキリスト教学校において伝道者として働く教師を養成することも、本学の大切な使命の一つです。そのため、通常の神学教育のプログラムと並んで、中学校、高等学校における「宗教科(聖書科)」教員を育成するための教職課程があります。今日までに数多くの聖書科教員、宗教主任を輩出し、日本のキリスト教教育に貢献しています。



牧師という つとめについて

教授 関川 泰寛 (歴史神学)

プロテスタント教会では、すべてのキリスト者は、神さまに仕え、神さまに身をささげ、友のために執り成しを祈る祭司であると考えています。宗教改革者は、そのようなキリスト者のありかたを「全信徒祭司性」(万人祭司)と呼びました。

同時にプロテスタント教会は、召命を受け、神と教会に仕える特別なつとめを行う人々を、キリスト者の中から牧師としてたててきました。主イエスが羊飼いのように羊を養ってくださったのと同じく、教会という群れを養い、説教を行い、聖礼典を執行します。人々に罪の赦しの福音の内容を教え、キリストの生命にあずかって生きる人々の群れの形成に、大きな、しかも喜ばしい責任を負います。



大学院(修士課程)まで一貫したプログラム

**学部1年からは6年間、
学部3年からは4年間**

キリスト教の伝道者として整えられるためには、充実した学びが必要です。そのため、本学では、学部だけではなく、大学院の修士課程(2年間)までを一貫した神学教育プログラムとして提供しています。このため、ほとんどの学生が、学部1年から入学した場合は、学部4年間、大学院2年間の計6年間、学部3年から編入学した場合(多くの他大学卒業者の場合)は、学部2年間、大学院2年間の計4年間かけて神学を学びます。

**徹底した少人数教育、
多様な学生層**

学部および大学院の在籍学生数は、120名前後で、教員と学生の比率はおよそ1:9です。この恵まれた環境の中で、教員と学生は、お互いに深く知り合い、交わりを持ちながら、共に神学を学びます。また、現在の学生の年齢層は10代から70代までと幅広く、入学前の社会経験も、出身教派も多様です。

カリキュラムイメージ

〈学部〉					〈大学院〉			
	大学1年次	大学2年次	大学3年次	大学4年次	博士課程前期1年次	博士課程前期2年次	博士課程後期	
学部1年次からの入学生	学際基礎科目 神学基礎科目A 神学基礎科目B				大学院聖書神学専攻	聖書神学専攻科目	聖書神学専攻科目	
	外国語科目							専攻外科目
	保健体育科目	専門教育科目1(必修) 聖書神学関係						
		組織神学関係						
		歴史神学関係						
		実践神学関係						
		専門教育科目2(選択)						
	<教職に関する専門科目> *教員免許状取得希望者のみ							
学部3年次からの編入生	学際基礎科目				大学院組織神学専攻	組織神学専攻科目	組織神学専攻科目	
	神学基礎科目A		神学基礎科目B					専攻外科目
	外国語科目							
	保健体育科目	専門教育科目1(必修) 聖書神学関係						
	単位認定 *他大学での履修状況により異なる。	組織神学関係						
		歴史神学関係 実践神学関係						
		専門教育科目2(選択)						
	<教職に関する専門科目> *教員免許状取得希望者のみ				実践神学研修課程	専攻外科目		
	<教職に関する専門科目> *教員免許状取得希望者のみ							

教会生活

夏期伝道実習

*このカリキュラムイメージは一例です。特に編入生の場合は、単位認定状況に合わせて、必要な学びが得られるよう個別に対応しています。
*学部には神学の4つの専門分野があり、大学院では聖書神学(新約・旧約)と組織神学(組織・歴史・実践)に分かれます。

神学の学びと教会生活の両方で、伝道者として整えられる

本学には「神学校と教会は車の両輪である」というモットーがあります。そのため神学生にとって教会生活は、大学での学びと並行する重要なもの。学生はそれぞれの出席教会(出身教会とは限らない)の礼拝に加わり、神学生として奉仕し、交わりのときを持ちつ

つ、牧師の指導の下、教会に仕えることを学びます。さらに、神学校のプログラムとして学部の4年次、大学院1年次には「夏期伝道実習」があり、全国各地の教会に遣わされて約5週間の伝道実習を体験します。

神学の4つの専門分野

カリキュラムの
紹介

聖書の成立を知り、解釈を学ぶ

聖書神学

●聖書に、何が伝えられているのか

聖書学／聖書神学とは、私たちの礼拝の中で朗読される聖書に、何が伝えられているかを解明する学問です。説教は、教会によってたてられた説教者が、聖書に基づいて語るたびに、神の言葉として聞かれます。説教者が自分の思いを語るのではなく、聖書が証するキリスト御自ら語ってくださいます。

●勝手な読みこみを批判し、吟味する学問

しかしどのようにして、説教者の勝手な読みこみと、聖書それ自体が聖霊によって証言する主の御心を聞き分けることができるのでしょうか。聖書学／聖書神学は、聖書のテキストを、それが語られた歴史の中に戻し、本来どのような歴史の中で、何を告げようとしたものなのかを解明します。またそのテキストが、どのように伝えられ、解釈されてきたかを学びます。それによって、私たちの読みを批判し、吟味するのです。学んだ人は、聖書の成立や伝承の歴史を知り、釈義の手法を身につけ、語学、文献学、文学、歴史学、考古学といった財産を得ることになります。

種別	科目名		
学部専門教育科目	旧約聖書神学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	ヒブル語Ⅱ(旧約専必)	
	旧約聖書釈義a・b	アラム語a・b	
	新約聖書神学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	シリア語a・b	
	新約聖書釈義a・b	新約聖書神学Ⅳ	
	ギリシャ語Ⅰ(1,2)・Ⅱ	新約時代史a・b	
	旧約聖書神学Ⅳ	新約原典講読Ⅰ(新約専必)	
	ヒブル語Ⅰ(1,2)(旧約専必)	新約原典講読Ⅱ	
大学院博士課程前期課程	旧約聖書神学関係	旧約聖書原典講読Ⅰa・Ⅰb	旧約聖書学演習Ⅱa・Ⅱb
		旧約聖書原典講読Ⅱa・Ⅱb	アラム語a・b
		旧約聖書原典釈義Ⅰa・Ⅰb	シリア語a・b
		旧約聖書原典釈義Ⅱa・Ⅱb	古代オリエント史Ⅰa・Ⅰb
		旧約聖書神学特講Ⅰa・Ⅰb	古代オリエント史Ⅱa・Ⅱb
		旧約聖書神学特講Ⅱa・Ⅱb	聖書考古学a・b
	新約聖書神学関係	旧約聖書学特研Ⅰa・Ⅰb	アッカド語a・b
		旧約聖書学特研Ⅱa・Ⅱb	修士論文指導演習 旧約神学Ⅰ
		旧約聖書学演習Ⅰa・Ⅰb	修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ
		新約聖書学特講Ⅰa・Ⅰb	新約聖書原典釈義Ⅰa・Ⅰb
		新約聖書学特講Ⅱa・Ⅱb	新約聖書原典釈義Ⅱa・Ⅱb
		新約聖書学演習	修士論文指導演習 新約神学Ⅰ
博士課程後期課程	新約聖書学特研Ⅰa・Ⅰb	修士論文指導演習 新約神学Ⅱ	
	新約聖書学特研Ⅱa・Ⅱb		
	旧約聖書神学関係	旧約聖書神学特殊研究a・b	
		旧約聖書文学特殊研究a・b	
		旧約聖書原典特殊研究a・b	
	新約聖書神学関係	聖書語学特殊研究a・b	
聖書考古学特殊研究			
新約聖書神学特殊研究a・b			
	新約聖書原典特殊研究		
	聖書解釈学特殊研究		
	原始キリスト教特殊研究		



大住 雄一 (おおすみ ゆういち)

- 1983年東神大大学院卒。独ベール神学大学卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1990年以来、東神大で教え、現在、教授。
- トラーの解釈。旧約を読むと、律法は人を縛るものではなく、喜びであり、恵みとして賛美されています。律法とは何でしょう。教会でもその恵みを共に味わいたい。その恵みを探す研究です。
- 旧約聖書神学、旧約聖書原典釈義など。



中野 実 (なかの みのる)

- 1987年東神大大学院卒。米クレアモント大学院大学宗教学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。2001年以来、東神大で教え、現在、教授。
- 福音書研究、史的イエス研究など。今も生きておられる世界の救い主イエス・キリストは、ポンテオ・ピラトのもとで十字架につけられた方です。この歴史と信仰とのユニークな結びつきにキリスト教信仰の深みがあります。そんな神学的関心に基づいて史的イエス研究、福音書研究をしています。
- 新約聖書神学、新約聖書学特講など。



小友 聡 (おとも さとし)

- 1986年東神大大学院卒。独ベール神学大学卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1999年以来、東神大で教え、現在、教授。
- 旧約聖書およびユダヤ教の黙示思想など。旧約聖書の中で後期の文学が研究領域。コヘレトの言葉やダニエル書など周辺の文書から旧約(ユダヤ教)の思想や倫理を探求しています。黙示思想に関心があります。
- 旧約聖書神学、旧約聖書原典釈義など。



焼山 満里子 (やきやま まりこ)

- 1997年東神大大学院卒。米クレアモント大学院大学宗教学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。2007年以来、東神大で教え、現在、准教授。
- 新約聖書、特にパウロ研究。パウロの伝道、教会形成について、またパウロ教会を中心とした初期キリスト教思想形成を研究しています。
- 新約聖書神学、新約聖書釈義など。



神の真理を明らかにする

組織神学

●教義学を中心に、倫理学、弁証学をも含む

「組織神学」は、神の恵みの真理をできる限り責任的に深く明らかに示そうとする人間の学問的作業です。その中心には、聖書の証言に従い、啓示の真理として、真の神がおられ、その救いの御わざがなされたこと、なされ続けていることを示す「教義学」があります。また、現代の教会とキリスト者が具体的にどう生きるかを探求する「倫理学」も組織神学の一環です。さらには人間の現実や時代や社会の問題の文脈で、福音の真理とその権利を明らかに示す「弁証学」も含まれます。組織神学は、それら一つひとつにおいて、またそれら相互の関連において一貫した整合的な筋道を明らかにしようと努力します。

●現代の教会とキリスト者を支える

しかしいざれにしても、神学は人間のわざですから、完全なものになりきることはできません。繰り返し、“より明らかに、より深く”を目指して神の恵みの真理に応えようと、挑戦され続けます。そのようにして現代の教会とキリスト者を支え、社会全体に対しても人間理性を越えた超越的な真理からの光を受けとめようと努力するわけです。組織神学は素晴らしい学問です。

種別	科目名	
学部専門 教育科目	組織神学Ⅰ a 組織神学Ⅰ b 組織神学Ⅱ a	組織神学Ⅱ b 組織神学Ⅲ a 組織神学Ⅲ b
博士課程前期課程	組織神学特講Ⅰ a 組織神学特講Ⅰ b 組織神学特講Ⅱ a 組織神学特講Ⅱ b 組織神学特研Ⅰ 組織神学特研Ⅱ a 組織神学特研Ⅱ b 組織神学演習Ⅰ a	組織神学演習Ⅰ b 組織神学演習Ⅱ a 組織神学演習Ⅱ b 組織神学演習Ⅲ a 組織神学演習Ⅲ b 信条学 修士論文指導演習 組織神学Ⅰ 修士論文指導演習 組織神学Ⅱ
博士課程後期課程	教義学特殊研究 a 教義学特殊研究 b 現代神学特殊研究 a 現代神学特殊研究 b 現代哲学特殊研究 a	現代哲学特殊研究 b キリスト教社会倫理特殊研究 宗教改革神学特殊研究 組織神学共同演習



1529年カルヴァン キリスト教綱要
(東京神学大学図書館収蔵)



近藤 勝彦 (こんどう かつひこ)

- 1970年東神大大学院卒。独テュービンゲン大学神学部博士課程卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1978年以来、東神大で教え、現在、教授。
- 贖罪論や終末論の他、特に「キリスト教弁証学」に力を注いでいます。人間、歴史、日本の問題、現代の世界文明の文脈でキリストにある福音の真理や教会存在の意味・正当性の論証を試みています。
- 組織神学、組織神学特講など。



神代 真砂実 (こうじろ まさみ)

- 1987年東神大大学院卒。英アバディーン大学神学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。1998年以来、東神大で教え、現在、教授。
- 教義学、特にカール・バルトの神学思想。キリスト教の信仰内容を体系的に関連づけたり、現代社会とキリスト教との関係を考える分野が専門です。「ミステリとキリスト教」ということさえ扱えます!
- 神学通論、組織神学、組織神学演習など。



芳賀 力 (はがつとむ)

- 1979年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1987年以来、東神大で教え、現在、教授。
- キリスト教組織神学(教義学、倫理学、弁証学)。現在「神学の小径Ⅰ—啓示への問い」で、キリスト教信仰の新しい体系的考察に取り組んでいます。物語る教会を土台にした教会の教え(教理)の再構築です。
- 組織神学、組織神学演習など。



2000年の諸教会の歴史を学ぶ

歴史神学

●歴史神学／教会史とは

歴史神学／教会史とは、歴史学という学問的ファインダーを覗き、たとえば2000年にわたり世界史道路を走行してきたキリスト教諸教会バスの信仰的活動の歩みと、それらの信仰・実践の総資産を撮影し点検する学科です。それによって、現代教会の今後の形成のために具体的な諸指針を学ぶためです。

●古代から宗教改革を経て現代まで

学部では、古代から現代日本までの教会の歩みを辿る教会史Ⅰ～Ⅴ、教理史(選択)、世界と日本の宗教史、ラテン語(選択)などを学びます。大学院では、古代から現代までの欧米、日本の教会の教理史、神学思想史、霊的生活史などの科目が開講され、学部での学びがさらに深められるようコースが用意されています。

だから、歴史神学を学ぶ意味は、牧師、教務教師志願のみなさんが、いわば将来、教会バス、学校バスに乗って開

種別	科目名	
学部 専 門 科 目	教会史Ⅰ	宗教史Ⅰ
	教会史Ⅱ	宗教史Ⅱ
	教会史Ⅲ	アメリカ教会史
	教会史Ⅳ	教理史Ⅰ
	教会史Ⅴ	教理史Ⅱ
博士課程 前期課程	教理史演習Ⅰa	教理史特講Ⅰb
	教理史演習Ⅰb	教理史特講Ⅱa
	教理史演習Ⅱa	教理史特講Ⅱb
	教理史演習Ⅱb	教会史演習a
	教会史特講Ⅰa	教会史演習b
	教会史特講Ⅰb	英国教会史
	教会史特講Ⅱa	修士論文指導演習 歴史神学Ⅰ
	教会史特講Ⅱb	修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ
	教理史特講Ⅰa	
後期課程 博士課程	神学史特殊研究a	教父学特殊研究a
	神学史特殊研究b	教父学特殊研究b
	宗教改革史特殊研究a	日本宗教思想史特殊研究
	宗教改革史特殊研究b	

始する運転活動に欠かせない専門知識、諸バスの運転情報、道路地図、カーナビ情報等を蓄積し、熟練した「道路通運転士」となるための学びのひとつなのです。



棚村 重行 (たなむら しげゆき)

- ① 1977年東神大大学院卒。米シカゴ大学神学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。1993年以来、東神大で教え、現在、教授。
- ② 19世紀アメリカ神学思想史、19世紀日本プロテスタント神学思想史など。近代英米教会史と日本教会史を連結する新研究を完了し、『二つの福音は波濤を越えて』を出版した。霊的生活史では、三位一体の神の像とその回復を主題とし、学びを続けています。
- ③ 教会史、教会史特講など。



関川 泰寛 (せきかわ やすひろ)

- ① 英エディンバラ大学神学部卒。1983年東神大大学院修士課程卒(神学修士)。日本基督教団正教師。1996年以来、東神大で教え、現在、教授。
- ② 古代教会史、教父学など。古代の教会史・教理史の研究をしています。四世紀の正統と異端の論争、教理と礼拝や霊性との関係、キリスト論や三一論の形成など。主著に『アタナシオス神学の研究』があります。
- ③ 教会史、教理史演習など。

その他の科目 (学部) 東京神学大学では、学際基礎科目(一般教養にあたる科目)や、外国語、保健体育、教職に関する科目も開講されています。また、神学の各分野にまたがった神学基礎科目や専攻間共同科目もあります。

種別	科目名	
学際基礎科目	人文科学系	哲学思想史/キリスト教と世界史/キリスト教と文学1世界文学/2日本文学/キリスト教と芸術1美術史/キリスト教と芸術2音楽史/心理学
	社会科学系	社会史/法と人権1法学概論/2日本国憲法/宗教と社会1デモクラシーと政治/2ウェーバーとトレルチ
	自然科学系	現代の自然観/生命の理解とバイオエシックス/環境と生態学/精神医学とキリスト教/保健衛生
	情報科学系	情報基礎
神学基礎科目	キリスト教通論Ⅰ・Ⅱ/聖書通論1旧約通論/2旧約時代史/3新約通論・歴史/神学通論	
外国語科目	必修	英語ⅠA・ⅠB/ドイツ語ⅠA(初級)/ドイツ語ⅠB(コミュニケーション)
	選択	英語Ⅱ/英語実践Ⅰ・Ⅱ ドイツ語Ⅱ
古典語	ラテン語	

種別	科目名	
保健体育	体育Ⅰ・Ⅱ	
学部演習	旧約聖書学/新約聖書学/組織神学/歴史神学	
神学書講読	英語神学書講読・聖書Ⅰ・Ⅱ/組織Ⅰ・Ⅱ/組織歴史Ⅰ・Ⅱ 独語神学書講読・聖書Ⅰ・Ⅱ/組織Ⅰ・Ⅱ	
専攻間共同	アジア伝道論演習	
教職に関する 専門科目	講義	教職概論/心理発達と教育/教育基礎論Ⅰ・Ⅱ/宗教教授法A・B/道徳指導法/特別活動指導法/教育の方法と情報技術Ⅰ・Ⅱ/教育的指導と相談の研究Ⅰ・Ⅱ
		演習・実習

(博士課程前期課程)

専攻間共同	日本伝道論演習/アジア伝道論演習/共同演習
-------	-----------------------



牧師になるための実践的な学び

実践神学

●神の実践に参加するために

実践神学とは、もともと「牧者の学」「牧会学」と呼ばれていました。現在は「神の実践」すなわち「神の救済行動」を主題とすることを明確にするために「実践神学」と呼んでいます。「実践神学」を「牧師学」すなわち牧師になるための学びとしてとらえることもできます。牧師のつとめは、生きて働かれる「神の実践」に参加させていただくことです。「神の実践」とは「神の救済の御わざ」です。神の救済行動の中で人間が神の道具として用いられるために「説教学」「礼拝学」「牧会学」「キリスト教教育学」「教会の法と制度」の学びが必要になります。

●召命と自己吟味の課題も

神が主導権をとってくださるとき、土の器である人間が<牧者・羊飼>としてたてられ、神に用いられる奇跡がおこります。一人のキリスト者が<牧師>とされ、<聖霊の器>とされる「神の召命」について学び、自己吟味する課題も「実践神学」の重要な学びのひとつです。

種別	科目名	
学部専門教育科目	実践神学概論 a 実践神学概論 b キリスト教教育概論 a キリスト教教育概論 b 教会実習 I 教会実習 II 教会教育入門 a	教会教育入門 b 牧会心理学 a 牧会心理学 b 臨床牧会教育 a 臨床牧会教育 b 説教学入門 a 説教学入門 b
博士課程前期課程	キリスト教教育特講 a キリスト教教育特講 b 実践神学演習 a 実践神学演習 b キリスト教教育特研 宗教社会学演習 a 宗教社会学演習 b 教会音楽 a	教会音楽 b 牧会心理学特講 a 牧会心理学特講 b 牧会カウンセリング特研 臨床牧会教育 a 臨床牧会教育 b 牧会心理学 a 牧会心理学 b
実践神学研修課程(必修)	説教学演習 I 説教学演習 II 説教学演習 III 礼拝学演習 牧会学演習 教会と神学校 日本基督教団史 I 日本基督教団史 II 日本基督教団論 エキュメニズム I (世界のエキュメニズム) エキュメニズム II (東アジアのエキュメニズム)	ITと伝道 青年伝道 刑務所伝道 地方伝道 キリスト教系諸宗団の問題 在日コリアン問題 部落解放とキリスト教 I 部落解放とキリスト教 II 障害者と教会 高齢者の介護と教会 教会付属幼稚園・保育園(所)の諸問題 牧会者の挫折とその克服
後期課程	博士課程	キリスト教化学特殊研究



山口隆康 (やまぐち たかやす)

- 1970年東神大大学院卒(神学修士)。独ハイデルベルク大学留学。日本基督教団正教師。1986年以来、東神大で教え、現在、教授。
- 研究領域は説教学、礼拝学、牧会学、教会法など日本における伝道と教会建設に取り組む実践神学。担当科目は、説教学演習、礼拝学演習、牧会学演習、日本伝道論演習など。
- 実践神学演習、説教学演習など。



小泉 健 (こいずみ けん)

- 1997年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒(神学博士)。日本基督教団正教師。2008年以来、東神大で教え、現在、常勤講師。
- 説教学、教会建設論など。宗教改革者は教会を「御言葉の創造物」と呼びました。説教が教会を建設するとはどういうことかを、改めて探求しています。そこから教会のあらゆる営みへと課題が広がります。
- 実践神学概論、説教学入門など。



朴 憲郁 (パク ホンウク)

- 1974年東神大大学院卒。韓国イエス教長老会神学大学院修了。独テュービンゲン大学神学部博士課程卒(神学博士)。在日本基督教団正教師(現在、日本基督教団への宣教師)。1994年以来、東神大で教え、現在、教授。
- キリスト教教育、新約神学、アジア・キリスト教伝道学。キリスト教教育分野では教会教育、学校教育、家庭教育、公教育との関係の共著書が多数。新約神学分野では『パウロの生涯と神学』の近著があり、アジア伝道論では研修旅行も行っています。
- キリスト教教育概論、アジア伝道論演習、キリスト教教育特講など。

バストラル・ケア担当

ウェイン・ジャンセン

(Wayne Jansen)



- 米ウエスタン神学大学博士課程卒(牧会学博士)。米国改革派教会正教師(現在、日本基督教団への宣教師)。2002年以来、東神大で教え、現在、教授。
- 臨床牧会教育など。「臨床牧会教育」の目的は受講者が自らの個人的な課題を把握することを通し、より有能な牧会者になることです。「ベルハー信仰告白」を研究し、キリスト者として人権を大切にすることに努力しています。
- 牧会心理学、臨床牧会教育など。

山下 泰嗣 (やました やすつぐ)



山下牧師のこれまで

- ▶1965年 兵庫県・神戸市生まれ。関西学院中学に入学してキリスト教に惚れ、日本基督教団 神戸神和教会(東島勇気牧師・当時)に通う。高校3年生のときに受洗。
- ▶1989年 関西学院大学法学部を卒業して、出版・情報の大手企業に就職。
- ▶1995年 東京転勤中に起こった阪神大震災を機に、献身の決意が与えられ、1996年東京神学大学2年次編入。
- ▶1999年 東京神学大学卒業と同時に、補教師(伝道師)の資格で、日本基督教団江戸川松江教会の主任担任教師として赴任。また、東京神学大学大学院に進学。
- ▶2001年 東京神学大学大学院修了。



御言葉を「これが真実です!」と語ることこそ、牧師の特権。 すべての労苦は拭い去られ、大きな恵みが与えられる。

学 生時代から折りにふれ、神和教会の東島先生から「牧師にならないか」「神学部に行かないか」と薦められていました。しかし、全くそのつもりはなく、大学卒業後のサラリーマン生活もぞんぶんに謳歌。3年目に東京に転勤しましたが、会社の寮の近くの川崎教会に通い、教会学校教師や役員を務めながら「教会員として教会を支えることが私の役割だ」と信じて疑いませんでした。

そんなある日、正確には1995年1月17日、阪神大震災が発生。私の実家は半壊、母教会である神和教会は全壊でした。神戸に駆けつけ、がれきに囲まれた教会の庭で礼拝に出席したとき、ある確信が与えられました。“すべてが崩れ去っても信仰は残る”。このこと、つまり「どんな破壊的な力に出会っても、最後まで残る神さまの真実」を伝えたい、伝道者になりたいという思いが与えられた瞬間でした。

幸いなことに周囲も賛成してくれ、働きながら1年間準備して、東神大に入学しました。しかしながら、地震のために建て替えた実家のローンを背負い、職を辞した身での学生生活では、大学院に進むのは経済的に厳しい状況でした。

ところが、神さまは整えてくださいます。教授陣が手を尽くして探して下さったところ、「牧師が隠退するので、大学院生の伝道師でも主任として招聘したい」という教会が現れたのです。それが、ここ、江戸川松江教会でした。

「神学が続けられる!」とほっとしたのもつかの間、大学院生と主任牧師の二足のわらじは、想像以上にたいへんでした。説教は、教会学校の幼小科、中高科、主日礼拝、夕礼拝と日曜日ごとに4回。木曜日の聖書研究祈祷会の準備も必要です。信徒の方々は状況を理解して、個別にじっくりお話できないこと、訪問できないことなどを我慢してくださいました。でも信徒以外に、近くの競艇場から「3日間何も食べていない」という方が訪ねてきたり、電話帳で調べるのか、深夜から明け方まで「死にたい」と繰り返す電話が

かかってくることもしばしば。翌日、朦朧とした頭で大学院の試験に挑んだことも一度や二度ではありません。

体力的にはギリギリでしたが、不思議と「もうダメだ」とは思いませんでした。思い悩むよりも、「神さまは私をどんな牧師にしてくださるのか」とワクワクする気持ちの方が大きかったからです。私には足りないことばかりですが、神さまは、足りない私をここに立たせて下さった。だから、私も神さまに委ねました。「果たすことのできる責任だから、担わせてもらっているのだ」と。

なによりも、説教すること、御言葉を語ることが私自身を養ってくれました。聖書を語り「このことは本当です! 真実です!」と信仰を言いあらわし、心からアーメンと唱える喜びは、なにものにも代えがたい伝道者の特権です。どんな労苦も、困難も、この喜びの前にすべて拭い去られます。

もし一度でも牧師になることを考えたのなら、ならなければ損です! 献身を考えている皆さんには、ぜひ、この素晴らしい恵みの感覚を味わっていただきたいと思います。

山下牧師のある1週間

日	教会学校幼小科、中高科、主日礼拝、夕礼拝の説教。役員会など教会の各委員会
月	東京神学大学の公開夜間神学講座(於:日本基督教団銀座教会)で事務局、主事を務める
火	教会の事務作業、聖書研究や説教の準備
水	教会の事務作業、聖書研究や説教の準備
木	夜 聖書研究祈祷会
金	東京神学大学の公開夜間神学講座(於:日本基督教団銀座教会)で事務局、主事を務める
土	説教の準備、週報印刷など

その他:教会員の訪問(随時)。娘の保育園への送り迎え、家事・育児も分担して行う。



“迷うときは、躊躇なく困難と思われる方へ進め”。
 大学4年生の夏に参加した学生修養会で、ある学生が質問しました。質問は覚えていませんが、講師の答えが私の胸に突き刺さりました。すでに企業への就職活動を展開していましたが、キリスト教教育の道に進みたいという思いもあり、迷っていたのでまさに天啓。神さまが私に語りかけて下さったのです。

改めて大学の先生に相談すると、日本で体系的にキリスト教教育、とくに教会教育を学ぶのは困難とのこと。そこで、英語は大の苦手でしたが、まずはアメリカの大学院で学ぶことを決意し渡米。さらに、伝道者として日本の教会に仕えるのならば牧師としてのトレーニングも必要とのアドバイスを得て、帰国後、東京神学大学大学院に入学しました。当初は、教会教育に携わりたいと思っていましたが、神さまによる巡り合わせで母校・青山学院大学に遣わされ、今年で9年目になります。

青山学院は今年創立136年を迎えましたが、昨今ではキリスト教大学と知らずに入学してくる学生もいるほど、日常的には世俗の世界です。私の担当するキリスト教概論でも、学期の初めの頃は“洗脳されないぞ”とか“宗教なんて欺瞞だ”と批判的に構えている学生も多い。ところが回を重ねると「もしかしたら、これは人生に関わる大切な話かも知れない」と表情が変わり、がぜん意欲が高まる学生が出てくる。それが面白くてたまりませんね。

学生が大学に在籍するのはたいてい4年間ですから、私たち大学宗教主任の伝道は短期決戦。毎日行われる大学礼拝の出席者も、最近はずいぶん増えました。が、大学生はもちろん、職員も含めてほとんどがノンクリスチャンで、すぐに洗礼や教会生活へ結びつくわけではありません。それでも、「大学をやめよう」と決意して、最後にチャペル礼拝に出たが、そこで聞いたメッセージによって思いとどまった」

などという話を聞くと、いまも、生きて働かれる主イエスを感じます。ここではキリストを知らない2万人もの人々に向けて福音を語るができます。授業、礼拝、諸行事、委員会などを渡り歩く多忙な毎日ですが、実にダイナミックな伝道に携わる喜びがあります。

若い世代と接する中で、彼らは人の痛みを知る、深く感動して涙を流す、一緒に喜び合う、限られたものを分かち合う……といったことが少ないのではないかと感じます。主イエスは、日々の生活の中で私たちに出会ってくださる。その出会いに気づくには、リアルな感情や生活体験が必要です。そこで、青山学院の宗教センターでは、フィリピンのスラム街や貧困に苦しむ人々を訪ね歩くツアーなど、最近では体験から学ぶプログラムを多く取り入れようとしています。ちょうど先日、そのスタディツアーから戻ったところですが、リーダー役の大学生も、参加した初等部(小学校)、中等部(中学校)の生徒たちも、それぞれに深い思いを刻んできました。彼らがこれからどんなふうの主イエスと出会い、神の国の担い手として成長していくのか、本当に楽しみです。

伊藤先生のある1週間

日	教会学校での奉仕、礼拝出席。礼拝説教に招かれることもしばしば。
月	午前は礼拝と授業、午後はゼミナール
火	午前は礼拝と授業、昼休み「聖書に親しむ会」、午後は会議のためキャンパス移動
水	午前は授業・説教の準備、研究活動、午後は学科分科会および教授会
木	午前は礼拝と授業、昼休み「キリスト教文化に親しむ会」、午後は学生面談、学会執務等
金	在宅研究日(授業や説教の準備、研究活動・執筆)、夕方から会議
土	午前は授業、午後は教員養成講座の講師、夕方は学生団体との打ち合わせ

キリスト教教育分野の研究や執筆活動を行いつつ、学会活動では、日本キリスト教教育学会常務理事、日本基督教学会幹事、学校伝道研究会副会長としての責任を負っている。

現代の日本で、2万人の若者を相手に福音を語るができる。 短期決戦でダイナミックな伝道を担う大学宗教主任のつとめ。

青山学院大学 宗教主任・教育人間科学部教授

伊藤 悟 (いとう さとる)



伊藤先生のこれまで

- ▶1965年 北海道生まれ 新潟県の敬和学園高校を経て1984年 青山学院大学経済学部入学。教職課程の履修、また教会学校教師として中高生との交わりを通して、キリスト教教育への関心を高める。
- ▶1987年 大学卒業後、アメリカのノースウェスタン・カレッジにてキリスト教教育学を専攻、その後、ウェスタン神学大学院に学び、宗教教育学修士課程を修了。
- ▶1991年 帰国後、東京神学大学大学院に入学。
- ▶1994年 同大学院修了と同時に北星学園女子短期大学の宗教主任として赴任し8年間務める。その間5年間は日本基督教団札幌教会の協力牧師も兼任。
- ▶2003年 青山学院大学の宗教主任として着任し、キリスト教概論、キリスト教教育論、キリスト教学校論などの授業を担当。また、大学礼拝や学内のキリスト教諸行事の執行、宗教センターの諸行事、キリスト教学校教職員後継者養成プログラムの実施、学生諸団体の指導などを行う。



東京神学大学 准教授(新約聖書学)

焼山 満里子 (やきやま まりこ)



焼山先生のこれまで

- ▶ 東京生まれ。中高一貫校でキリスト教に出会う。国際基督教大学(ICU)および同大学院比較文化学科(博士課程前期)を経て、1994年東京神学大学大学院に入学。
- ▶ 1997年 同大学院修了後2001年3月まで山口県下関市の梅光女学院大学(現・梅光学院大学)短期大学部の宗教主任。この間、日本基督教団安岡教会協力牧師。
- ▶ 2001年 夏よりアメリカ・カリフォルニア州クレアモント大学大学院にて新約聖書学を学び、2007年同大学院宗教学部博士課程修了。
- ▶ 2007年 4月より東京神学大学初の常勤女性教員として、新約聖書神学、新約聖書釈義などの講義を担当。日本基督教団吉祥寺教会協力牧師。

教務教師も、牧師も、“福音を証しする”ために召されている。 教会のなかで葛藤し、聖書を語りたい。

神 学校で学んだ後の主な進路として、教会に仕える牧師や学校や施設で働く教務教師などがあり、ひとつではありません。いずれも神に仕え、人に仕え、福音を語る“伝道者”、“牧師”であると思います。

私は中学に入学して初めてキリスト教に出会いました。今までの生活になかった価値観を知り「聖書についてもっと知りたい。聖書を伝える人になりたい」と思いました。特に自分がキリスト教と出会った場が学校だったことから、キリスト教主義学校の聖書科の教師として働きたいと思うようになりました。そのため大学卒業後、東京神学大学に進みました。けれども教団の牧師になる訓練が中心で、それが教務教師として働くことに必要か悩みました。そこで一度退学し、学部で学んだICUの大学院で2年間新約聖書学を学びました。ICUでは新約学は批判的文献学、歴史学であり、しかしその成果は教会の学として仕える時に意味があることを教えられました。それならば東京神学大学で牧師になる訓練を受けたいと思いました。

3年間の大学院の学びを終え、短大の宗教主任として赴任し、同時に学校近くの教会に協力牧師として仕えることになりました。授業で出会う若い人たちが「どう生きるべきか」を真摯に悩み、求めていることは伝わってきましたが、彼女たちの宗教に対する考え方は様々でした。学生たちに福音を届けるには、聖書の真髄をぶつけるしかありません。そのためには聖書を良く知っていること、神の前に立つひとりの人間として学生に対峙することが必要でした。

4年たつうちにもっと聖書について学ぶ必要があると思いました。機会を与えられてアメリカに留学しました。その後、思いがけないことに東京神学大学の教員となるよう声をかけていただきました。

いまは神学生に授業を行っていますが、私自身の課題はある意味で短大で教えていた頃と同じです。それは聖書を

知るためにあらゆる努力をすること。そしてその御言葉をひとりの人間として受けとめ証しすることです。例えば「新約聖書釈義」という講義では、聖書をギリシャ語で読み、単語、文法を理解し、意味を厳密にとらえ、さらに、これまでの研究史を調べどのような理解がされてきたかを学びます。それは骨の折れる作業です。しかし、どんなに苦労した「釈義」でも、そのままでは「説教」にはなりません。聖書の理解が生きた言葉になるためには、伝道者がその言葉に生かされていることです。これは伝道者自身が教会の2000年の歴史の上に生き、また世界中のキリスト者に連なるものとして生き、葛藤しながら獲得していくものだと思います。その姿勢を神学生と共に学びたいと思います。

教務教師も牧師も、同じ伝道者です。東神大は牧師養成を第一目標にしています。けれども教務教師をめざす方々にも豊かな訓練の場を提供しています。ですから、伝道者として召しを受けた多くの方々に本学で学んでいただきたいと思っています。

焼山先生のある1週間

日	日本基督教団吉祥寺教会の協力牧師として勤める
月	研究日
火	授業、クラス別祈禱会(2年生を担当)、一般時間(学外講師の講演)、教授会
水	授業
木	授業準備、*1学生課の担当教員としての仕事、*2自身の研究論文執筆など
金	授業準備、学生課の担当教員としての仕事、自身の研究論文執筆など
土	授業、授業準備

*1 学生会が企画する行事、修養会、入学式・卒業式後の愛餐会、運動会などを教員として補佐し、責任をとる。

*2 研究者としては、日本新約学会での研究発表、学会誌への論文掲載など。第1コリントの研究書の翻訳なども手掛ける。



東京神学大学の1年

東京神学大学は小さな大学ですが、キャンパスは活気に満ちています。

学生会が中心になって毎日のチャペル礼拝、春の運動会、秋の全学修養会、クリスマス祝会などが計画され、学生新聞の発行も行います。また、それぞれの学年は「クラス」と呼ばれ、大学院卒業まで密な交わりを持ちます。各クラスには担任教員がおり、定期的に懇談会や祈祷会などを行っています。学生寮は学生による自治寮で、学年や世代を超えた友情が育まれます。



東神大の寮へようこそ！

大学院1年 羽島 健司

東京神学大学そのものが、多様な背景を持った多様な年齢層の神学生が集う学校ですが、学生寮の一番の魅力は、そうしたいろいろな魅力を持った兄弟姉妹と、日常生活の中で直にふれあうことができる、ということでしょう。

たとえば、男子寮にはちょっとした銭湯のような風呂があるのですが、そこに何人かが集まると、他愛のない会話だけではなく、神学的な議論まで交わされます。また、聞くところによると、女子寮ではルームメイトと食事を共にしたり、互いに個人的な相談をしたりして、交わりを深めているそうです。

そして、それらの交わりの中心には、これも当然ながら神さまがおられます。授業のある日の朝に必ず持たれる寮拝では、寮生が持ち回りで奨励を担当し、御言葉に聞き祈りを合わせることから一日を始められています。主にある交わりこそが、学生寮の醍醐味と言えるでしょう。



女子寮での食事会の交わり



クラスが一致団結して挑む恒例行事「運動会」

夏期伝道報告会
修士論文提出締め切り
青年の集い

夏期伝道オリエンテーション
夏期伝道壮行祈祷会
夏期伝道実習

9月

8月

7月

夏期伝道実習
夏期休業



夏期伝道実習に向かう神学生を、祈り、励まし、送り出す壮行祈祷会

入学式
新入生・編入生
オリエンテーション

4月

5月

全学懇談会
学生総会
運動会

6月

祈り合い、助け合う「クラス」

学部4年 ^{ますとし}益敏

私たち学部4年生のクラスは、33名という少数ながら年齢差はなんと55才！しかも、学歴、職歴、性格、賜物…多種多様。「世の無学な者、無力な者」であることを自覚しつつも「私について来なさい」という主イエスの御声によって集められた仲間です。

クラス全員が顔を合わせるのは週1回のクラス祈祷会のみですが、祈り合ったからには助け合うのが神学生ルール。宿題、テスト、レポート作成…多く賜物を与えられた者は多く用いられる恵みにあずかっています。共に祈り、共に学び、そして共に食することを大切に、主の派遣の日に備えています。

夏期伝道実習

学部4年次、大学院1年次の夏には、それぞれ約5週間にわたる「夏期伝道実習」のプログラムがあり、全国各地の教会に遣わされて、牧師を見習い、伝道者としての日常を学びます。多くの神学生は、緊張しながら出かけていきますが、実習後は伝道する喜びと希望に満たされて帰って来ます。

日本伝道を担う青年の集い

9月の第4土曜日に開催される“青年の集い”は、献身を考えている若い世代に向けた催しです。開会礼拝に始まり、さまざまなテーマ設定による分団での話し合い、模擬授業などが行われます。先輩伝道者から「献身の証し」を聞き、また神学校の様子を体験するまたとない機会です。



神学の学びの一端に触れる、青年の集いの模擬授業



卒業礼拝
卒業・修了式
3月入試・合格発表



オープンキャンパス
クリスマス礼拝
クリスマス愛餐会

3月

2月

1月

2月入試・合格発表

12月

11月

10月

クリスマス

クリスマスが近づくと、各地から届くクリスマスカードがチャペル前に並びます。コーラス部によるメサイア演奏会、クリスマス礼拝、学生会によるクリスマス祝会などが行われます。

全学修養会
11月入試・合格発表



東神大の誇る神学専門図書館

東京神学大学の図書館は、神学、宗教学、哲学を中心に、古今東西のキリスト教文献を収集している日本一の神学専門の図書館です。蔵書数は、およそ10万冊（洋書約6万冊、和漢書など約4万冊）で、学内のみならず学外の研究者にも広く利用されています。



愛すること、祈ることを学ぶ教会生活

大学院2年 ^{うめざほ}梅實 淳一

神学生は、大学での学びと並行して1年を通して教会に仕えます。私の場合、出身教会と現在の出席教会は同じなのですが、神学生になって変わったことのひとつに、「梅實神学生」と呼ばれるようになったことが挙げられます。そして自分の中にも「梅實さん」だったときは違う責任感が生まれてきました。例えば、教会学校教師などこれまでと同じ奉仕でも「自分は神の働きに参与しているんだ。そのために、召され、立たされているんだ」という気持ちを強く感じるようになりました。ですから、自分勝手なことはできません。何が正しいことか、自然と祈り求めるようになりました。

また、神学生は、教会員の方々から本当によく祈られるようになります。教会の祈り会や、個人の祈りの中に入れていただくのは、とてもうれしい経験です。一方、自分自身を省みると、単なる一教会員だったときは、他の信徒の方々のことを本気で考えることは、正直、あまりありませんでした。でも今は、教会員の方一人ひとりの顔を思い浮かべて祈っています。教会生活では、まごころを持つこと、愛すること、祈ることを学びます。



素顔の神学生

東京神学大学では、キャンパスで学ぶ全ての学生が、召命を受け、伝道者になることをめざし、共に切磋琢磨しています。個性あふれる学生たちも、伝道の熱意は同じ。悩みながらも御言葉に向き合う、その素顔を紹介します。

● 教会に責任を持つ神学校

—数ある神学校の中からなぜ東京神学大学へ？

上山 学術的に高いレベルでアカデミックに学びたかったからです。一方で神学は、趣味や学問的知識を得るためのものではなく、教会に仕えるための学びだと受けとめています。もちろん、神学は学べば学ぶほど楽しいし、自由に議論すべきだとは思いますが、その“自由”は、教会から離れて好き勝手なことを言うのとは違うと思ってきました。アカデミックでありながら、教会に対して責任を持つ。そういう空気を求めていたので、東京神学大学に来て正解でした。

箕口 信仰を与えられたのは、大学院進学を志して貯金をしながらの社会人3年目。貯金も、これからの人生も主のために捧げようと、献身を決意しました。教会の牧師に相談したところ「フルタイムで勉強できるのであれば、東京神学大学がいい」と薦めてくださいました。入学前は真面目な“カタイ”人ばかりかと思っていましたが、実際には個性的で面白い人が多いです。なによりも、同じ志をもった仲間と折り合えることがうれしいですね。

● プロテスタントの本流を学ぶ

栗山 私は独学で聖書を読み始め、その後教会に行こうと思立しました。母に相談したところ、所属する



上山 耕平

(うえやま こうへい)

— 大学院1年 —

【献身まで】 1984年生まれ。牧師家庭で育つ。自らの根拠を問う中で、また教会を問う中でキリストと出会う。自分の中にある「召し」への問いに答えられず迷っていた以前の大学在学時、教会の修養会で現学長の近藤勝彦教授と出会い「迷っている人は、すでに召されている」と言われて献身を決意。卒業後3年次に編入。

セブンスデーアドベンチスト教団の教会を紹介され、そこで初めて説教による福音に触れて「これだ!」と確信しました。すぐに牧師に相談しましたが、

もちろん驚かれました。未受洗者が「一生をかける仕事が見つかった。牧師になる」と言うのですから。でも、理解して受け入れてくださり、神学校を選ぶときも「プロテスタントの中心的な教理を学びたい」という私の希望から、東京神学大学を薦めてくれました。

富山 私の父は本学の卒業生。ですから「伝道者になるなら東神大」と、他の選択肢は考えませんでした。父には「高校を出たばかりでは、厳しいぞ」と言われました。同世代の学生が少ないこと、また、人生経験が少ない中で神学と向き合う困難さも示唆していたのだと思いますが、それでも喜んでくれました。

● 頭に血が上るほどの熱い授業

—お薦めの授業を教えてください。

栗山 「組織神学Ⅰ、Ⅲ」です。私のときは近藤先生が担当されていたのですが、先生ご自身が「福音の真理の理解」に集中し、テーマに入りこんで語られます。その熱心さに聞く方も誘いこまれて、授業が終わると集中しすぎて頭に血が上って熱くなるほど。たまに鼻血が出るんじゃないかと思ったぐらいです(笑)。実際に鼻血を出したことはありませんが、皆に聞いてもやはり、「熱くなる」と言いますね。

富山 1年生は入学して最初の授業が火曜日1時限の「キリスト教通論Ⅰ」です。これは、直接、世界的な神学者から神学の概論を聞くとても豊かな時間。私のときは、前学長の山内眞先生がご担当でしたが、少





人数ゆえに丁寧に指導してくださり、楽しい授業でした。他には、2年に1度の開講ですが、学際基礎科目の「キリスト教と芸術・音楽史」も面白く、大好きでした。

● 基礎的な学びを経て、深い理解に至る

上山 印象的だったのは、神学の基礎を学ぶ神学通論です。ぼくは神代先生の授業で受けましたが、神代先生はどちらかといえば飄々とした方で、静かに淡々と語られるのですが、聖礼典の話になったとき、一転してかなり熱く話されたことがあります。ふだんクールな先生の、内に秘めた情熱に触れたように思いました。

箕口 英語はもちろんギリシャ語、ヒブル語、ドイツ語など語学に加えて、教会史など暗記や反復学習が必要な科目に多くの方が苦勞するのは事実。でも！そこでがんばると、もっと面白いこと、深いことに手が届くという実感があります。大学院ではほとんどの授業が少人数のゼミ形式。課題本を読んでディスカッションするのですが、学部での苦しい学びが基礎となって、さまざまなことがダイナミックにつながって見えてきます。だからこそ白熱の議論ができますし、自然と頭にも入ってきます。楽しいですよ。

● 祈られ、支えられるから力が出る

—東神大に入って「自分が変わった」と思うことはありますか？

箕口 よくも悪くも、がんばりすぎなくなりました。以前は体に無理をさせてでも、やるべきことを完璧に終えないと眠れないタイプでした。でも、長く伝道



箕口 窓香

(みぐち まどか)

— 大学院2年 —

【献身まで】1979年生まれ。大学を卒業後、3年間YMCAの英語学校に勤務。まっすぐにキリストに信頼して生きている同僚に導かれ、信仰を与えられる。もともと大学院に進学する希望を持っていたが、受洗と同時に召命を受け、同じ学ぶのなら教会に仕えるための神学を学ぼうと、3年次に編入。

者として勤めようと思ったら体は大切だな、と思うように……。今は変な無理をしないで、神さまを信頼し、委ねることを日々思い知らされています。

富山 私は逆です(笑)。面倒くさがりやなのですが、「がんばろう！」と思うようになりました。というのは、神学生は常に祈られているからです。出身教会から、奉仕教会から、家族から、寮では友人から、授業では先生から……。知り合いだけでなく、見ず知らずの多くの方々も「東神大のために」と祈ってくださる。そう思うと怠惰ではいられません。牧師の言葉には責任が伴うものですから、しっかり勉強しないと。

● 御言葉が語れなくなった！

上山 変わったことは……聖書に聴けなくなった。祈れなくなった。

一同 ……！！

上山 以前は、どこか「自分は聖書に聴けるし、御言葉も語れる」という自負がありました。授業でも、効率的よくパパッとこなすことは得意でしたし。でも、夏期伝道実習で説教の準備をしていたとき、聖書を開いても文字を読むだけで、心に入ってこない。どうやって御言葉を語るのかもわからない。かといって、それを求める祈りもできないという状況を経験しました。

富山 どうやって乗り越えたんですか？





上山 逃げるわけにもいかないから、とにかく出来ない自分に集中して、突き詰めて考えました。すると、ふと「自分は出来ないんだ」ということがわかったんです。自分には何もない。空っぽなんだ。このとき初めて、「神さまに委ねる」ということがわかったように思います。そして、空っぽのまま自分から離れて説教を書き、読み返したとき「ああ、ここに福音があるな」と素直に感じました。

栗山 ……わかるなあ。

上山 それまでは「自分が書いた説教」「自分が語る御言葉」と、常に自分主体に考え、説教を読み返しても「まあ、いい出来じゃない」と思うぐらい。自分自身がそこから福音を聴くとは思っていませんでした。でも、違った。説教は、自分ではなく、神さまが語ってくださるのだと受け取れるようになったことが、大きな変化です。

● 最前線で恵みを受け取る神学生生活

栗山 私も、説教を聞いても恵みを受け取れず、聖書を読んでも御言葉が語れず、伝道者としてふさわしいのか悩む期間が、けっこう長く、1年弱続きました。その間に夏期伝道実習があり、壁にぶち当たって、ギリギリまで神さまと対峙して、ようやく「委ねる」ということができた。そうしたらすごく楽になったんです。だ



栗山 尚典

(くりやま ひさのり)

— 大学院1年 —

【献身まで】 1979年生まれ。高校卒業後広島から上京し、フリーターを経て就職。営業職として成績が上がらずに悩んでいたとき、クリスチャンである母から送られた「ヤベツの祈り」(ブルース・ウィルキンソン著)や聖書を読み、神の恵みを確信。教会に通うようになり、一生を献げる務めは牧師だと思い、入学。



富山 希望

(とみやま のぞみ)

— 学部3年 —

【献身まで】 1989年生まれ。中学2年～高校時代の途中までを牧師である父の留学先、米国で過ごす。在米中、仲の良かった友人が神を信じきれず希望を失うのを支えようと試みるが、伝わらず悩む。その一方で、漠然としていた牧師という将来像や伝道への思いが固まり、帰国後、高等学校卒業程度認定試験を経て、入学。

から、先生方が「夏期伝では失敗してこい」とおっしゃるのもわかりますね。御言葉は能力で語るものではない。神さまが自分を通して語ってくださり、その恵みを説教者である自分も受ける。それを実感し、改めて牧師の務めの大切さ、面白さに気づきました。——神学生であることの喜びとは？

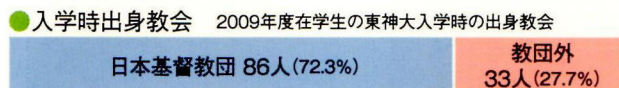
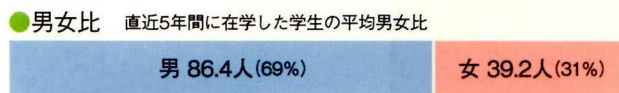
箕口 以前勤めていたときは、忙しくて聖書がなかなか読めませんでした。それと比べればやらなければいけないこと、向き合わなければいけないことが、聖書だったり、神さまに仕えることであるのは神学生の恵み、幸いだなと思います。聖書ばかり読んでいてもいいし、四六時中神さまに仕えることを考えていられる。それは恵みである一方で、牧会者の、御言葉を取り次ぐものの責任でもあると思います。

富山 私を覚えて祈ってくださる方々がいることに、改めて感謝ですね。東神大のよいところは、先生方が学生一人ひとりを本当によく見てくださること。牧師になるなら、ここです！

栗山 神学生の喜びは、御言葉の恵みを最前線で受け取れることだと思います。誰もが試行錯誤しますが、信仰共同体としての大学で、また教会生活で徐々に整えられていく。自分は寮生ですが、寮の仲間の支えも大きいです。だから、神さまに呼び出されたと思ったら、安心して来てください！

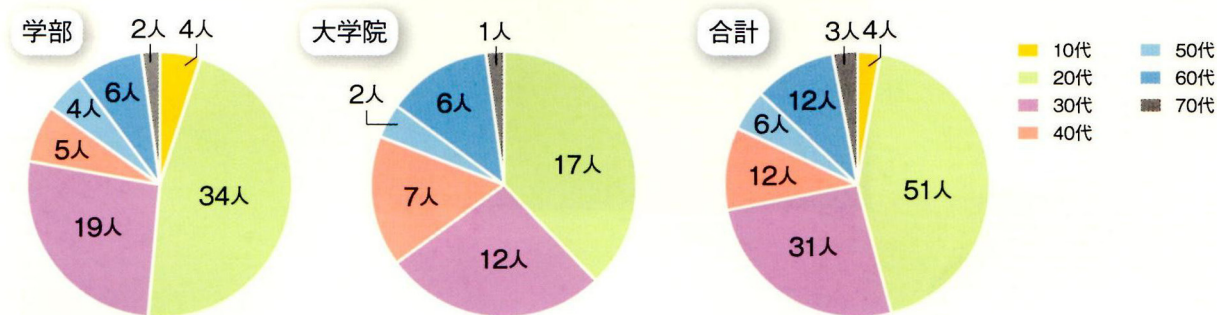
東神大生のProfile

幅広い年齢層、さまざまな背景をもった学生がともに学ぶことは東京神学大学の大きな特徴です。本学に入学を許された神学生のバックグラウンドをいくつかのデータから紹介します。(2009年度実績)

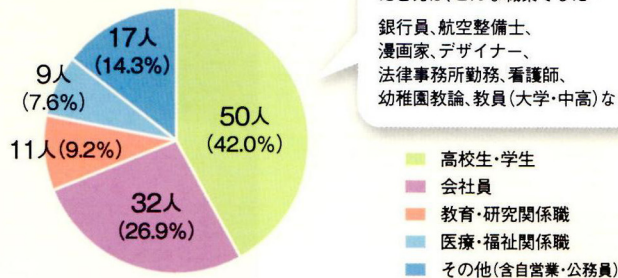


●留学生 直近5年間の平均在籍留学生数……12.2人

●年齢 2009年度在学生の年齢構成



●2009年度在学生の就職



●卒業後の進路

卒業時に、90%近くの卒業生が、伝道師・牧師・教務教師として各地の教会・学校へ遣わされています。

東京神学大学の諸活動

【公開夜間神学講座】 1947年以来、信徒、役員、教会学校教師の教育のために、本学の教授を中心としたすぐれた講師陣による公開夜間神学講座が行われています。日本基督教団銀座教会にて、毎週月・金曜日に開講されています。

【教職セミナー】 教会の教職者の神学の再研修の機会として、毎年1月に教職セミナーが開かれます。全国から多くの牧師たちが集まり、寝食を共にしながら、学びます。

【東京神学大学総合研究所】 総合研究所は、日本伝道研究所とアジア伝道研究所から成る学術的な共同研究の拠点です。それぞれ講演会、セミナー、研修旅行などを実施しています。

【刊行物】 上記の総合研究所からは、研究論文や講演を載せた『紀要』が毎年刊行されます。その他、神学雑誌『神学』、東神大パンフレットなどを刊行しています。特に東神大パンフレットは、諸教会における信徒教育のテキストとしても広く用いられています。

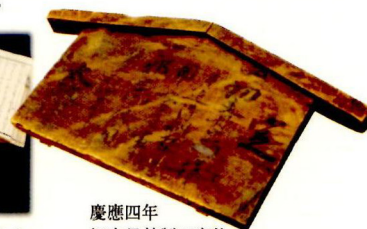
【後援会と献金】 東京神学大学は、本学の特質を良くご理解くださる諸教会、教会員の方々の祈りと献金によって支えられている伝道者養成機関です。支援者の方々は、神学校と教会が車の両輪のように互いに支えあいながら歩めるよう、

全国各地に後援会を組織してくださっています。講演会や献金に関するお問い合わせは、東京神学大学財務担当まで。献金先：郵便振替00150-5-5032

歴史的なキリスト教関連の品物を收藏、保管することも、東京神学大学の重要な役割です。



1870年代のヘボン訳の新約聖書など



慶應四年 切支丹禁制の高札

編集者からのメッセージ

新しい『学校案内』をお届けいたします。この『学校案内』は東京神学大学を皆さんに知っていただきたいという切なる願いから作成されました。本学はキリスト教会の牧師、伝道者だけでなく、キリスト教学校の聖書科教師を養成する大学です。この『学校案内』をお手にとって、「私も神さまから呼び出され、招かれている」と感じていただけたら、とても嬉しく思います。伝道への志をお持ちの方は、どうぞお気軽に本学教務課入試係にご相談ください。また、本学をすでにお支えくださっている諸教会の皆様には引き続きご支援をお願いいたします。

2010年7月





 **東京神學大學**

〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-30

TEL:0422-32-4185

FAX:0422-33-0667

E-mail kyoumuka@tuts.ac.jp

URL <http://www.tuts.ac.jp/>

東京神学大学では毎年11月・2月・3月に入学試験を行います。ご質問や募集要項などの請求に関するお問い合わせは、東京神学大学教務課入試係まで。



- JR中央線 三鷹駅南口
小田急バス2番乗り場より「国際基督教大学」、「調布駅北口」、
「武蔵小金井駅」いずれも「西野」下車 徒歩5分
- JR中央線 武蔵境南口
小田急バス2番乗り場より「国際基督教大学」
3番乗り場より「狛江駅北口」
4番乗り場より「吉祥寺駅」、いずれも「西野」下車 徒歩5分